

外国語としての日本語および日本語教育の研究

研究の概要

大学で学ぶ留学生や一般の外国人の日本語リテラシー・ニーズに応えるためには、日本語を「自国語」として学ぶ国語教育とは異なり、日本語を「外国語」として学ぶ学習者の視点に立って、外国人に適切な日本語の教授法や教材などについて、研究する必要があります。また外国人の日本語学習ニーズは、日本語の背景となっている日本の歴史や文化等を学びたいというニーズと一体となっていることが多く、それに応えるための教育内容についても、研究することが重要です。

さらに、現在、日本語学習者は海外でも急増し、大学の日本語学部、日本語学科が増加しています。「外国語としての日本語」の教授法や関連する問題について、海外の研究者と連携して、研究を進めています。

また現在、約300万人の多様な外国人が日本で生活しています。日本語のできない子供も学校で学んでいます。それら多様な目的を持つ外国人に対する日本語支援のあり方について、市民の日本語ボランティアの役割も含めて、研究しています。

研究の特徴

外国人向けの「日本語」教育は、留学生や日本在住外国人、さらに海外の外国人の日本語学習ニーズに応えるためのものですが、それら多様な学習者に共通しているのは、学習者にとって、日本語は「外国語」であるという点です。日本語を母語とする日本人が日本語を深く学ぶためには、古典日本語の学習が欠かせませんし、文法についても、古典日本語文法との関連性は重要です。けれども、外国語として現代日本語を学ぶ外国人にとっては、当面の学習目的は、現代日本語であり、例えば文法も、「国文法」とは異なる「学習文法」が使われます。最近では、「日本語」という言葉が市民権をえる中で、外国語としての日本語教育と、自国語としての日本語（国語）教育の相互関連も深まりつつありますが、日本語と日本語教育を、「外国語としての日本語」の視点で研究するのが特徴です。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

和歌山紹介日本語教材作成、市民ボランティア日本語教員養成講座、県内留学生日本語スピーチコンテスト、作文コンクール、外国につながる子どもへの教育支援プロジェクト。その他、県、市町村、県国際交流協会、日本語専門学校、国際交流NPO団体、等と連携し、様々な地域連携事業に取り組んでいます。

研究者からのメッセージ

外国人の方々に日本語・日本文化を知っていただき、多様な文化背景を持った方々が生活しやすい多文化共生社会のために一緒に考え取り組んでゆきたいと思います。

研究分野 : 日本語教育学、日本語学、国際理解教育

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学 国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター・教授・長友文子

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp